

# 第2回 「旧岩崎家末廣別邸」

— 新たにわかった別邸の仕組み — 林 田 利 之

## 1. 綿密に計算された別邸の排水

旧岩崎家別邸の建つ土地は標高40m程度を測り、富里市の中でも高い位置にあります。また、別邸の北側には根本名川の源流の一つである谷津が入り込んでいることからわかるように、水の流れが変わる場所(分水界と呼ばれます)に位置していることから、水による被害を受けにくく、農場の中心に位置していたことから、この場所に別邸が建築されたものと考えられます。

これまでも夏場にゲリラ豪雨による大雨を幾度も経験してきましたが、建物の周り、また、中庭に雨水が溜まることは一度もありませんでした。このように地形的な特徴から水害を受け難い場所に建築されたと考えられる末廣別邸ですが、昨年(2013)の6月以降に行なった環境整備によって、綿密な「排水計画」が行なわれていたことがわかり始めました。



図1 末廣別邸周辺航空写真



図2 ボランティアさんと筑波大学学生さんによる中庭の掃除



図3 中庭の排水口



図4 中庭雨樋用排水口



図5 玄関脇の排水口

## 2. 富里初?の様式便座は東洋陶器製

末廣別邸のトイレは三か所あり、1か所を除いて洋式便座になっています。これらの便器は当初から様式ではなく、ある時点で和式から洋式、そして水洗に改修された可能性が出てきました。便器にはそれぞれマークが印刷されており、そこから東洋陶器製であり、何時頃製造されたものなのかがわかりました。

1914年から1917年(大正3年から大正6年)



TOTOの歴史は、1912年(明治45年)に陶磁器製品の製造・販売を行っていた日本陶器合名会社(現ノリタケカンパニーリミテド)社長の犬倉和親が衛生陶器を開発するために、同社内に製陶研究所を設立したことに始まります。  
1914年(大正3年)に履掛式水洗便器の開発に成功。東京と大阪で試験販売した衛生陶器には、地球を中心にして外周のボーダーに「NIPPONTOKI GOMEI KWAISHA」と記し、その上部を月桂樹が取り巻いた商標が使用されました。

1917年から1921年(大正6年から大正10年)



1917年(大正6年)に創立した東洋陶器株式会社が最初に使用した商標です。  
当時の我が国は下水道がほとんど整備されていなかったことから、需要を確保するためには衛生陶器を外国へ輸出する必要がありました。そこで、当時の商標には外国で理解しやすいようにリボンのなかに東洋陶器株式会社を英訳した「ORIENTAL CERAMIC WORKS LTD」と表記し、上部にはその頭文字の「OCW」を使用したモノグラムを配置しました。

1921年から1932年(大正10年から昭和7年)



地球の上に大鷲が立った線の外側に「ORIENTAL CERAMIC WORKS LTD」の文字を記したデザインの商標です。  
地球の上に立った大鷲のデザインは世界に向けてはばたくという会社の思いを表したもので、製品の品質が安定してきた1921年(大正10年)から商標に採用されました。

1932年から1961年(昭和7年から昭和36年)



TOYO TOKI

1932年(昭和7年)からの商標には、社名である東洋陶器を使用するようになり、「TOYO TOKI」と表記しましたが、品質の優れた高級品には(左)を、大衆品には(中央)のデザインを採用しました。  
また、第二次世界大戦中及び終戦直後には、CO.LTD.が敵国の言葉であることから、「KAISHA」と表記しました。

図6 東洋陶器マークの移り変わり